



特定非営利活動法人 日本プロフェッショナルエンジニア協会

2020年(令和2年)11月度 理事会 議事録

【日時】 2020年11月14日(土) 9:30 -12:20

【場所】 神田 Mixer および Zoom

【出席者】 事務所 4名、Zoom 5名、計9名

理事：(以下、東京会場)川瀬、森山、義本、稲葉、(以下、Zoom)藤村、小口、奥野

監事：(Zoom)植村、土屋

【欠席者】 森口、太田(会長委任)、西久保

【審議開始準備】

- ・ 議事進行者、書記、議事確認者を議長より指名 書記：稲葉、承認者：小口、川瀬
- ・ 前回までの理事会からの宿題事項確認 … 各審議事項、報告事項の中で対応

【審議事項】

1. 会員数推移(会員：小口) …Shiryō-S01

9月度理事会後 PE183名 PES1名 PEN59名 FE57名 AF25名 ST10名 合計335名

11月度理事会後 PE185名 PES1名 PEN58名 FE59名 AF24名 ST10名 合計337名

小口理事より、上記の会員数推移が報告され、承認された。

以下のコメントがあった

〈川瀬〉 エンジニアリング会社勤務の知人より聞いた話で、会社に PE 所持者の若手がいるが、JSPE 入会者が少ない。そのような掘り起しができないか。

2. 20周年記念行事(企画：義本) …Shiryō-S04-1、S04-2

2-1 Mission 再考の今後の進め方について以下の通り審議した。

2020年3月21日理事会で提案した20周年企画のうち「Missionの再定義」については9月12日の拡大理事会での討議、続く10月31日の20周年記念パネルディスカッションを受けて、今後の進め方として、次の3点の方針が提案された。

- ①これまでの議論を、12月中旬までにオピニオンとして一旦まとめ、20周年記念誌で紹介する
- ②当初はMission再考としていたが、議論の過程から、むしろ2020のVisionとして打ち出す
- ③2021年6月までに会員を巻き込むアンケート等で意見を聴取し、次回総会の活動方針に活かす

審議の結果、①については、後世に残る記念誌の中に途中経過を掲載するのは望ましくないということで、議論をしている事実のみ記載することとなった。

また、②③については

- ・ 20周年の節目として、Mission再考(Vision)の策定は有益なことだと考える
- ・ その策定は、会員のリーダーである理事(会)がまとめるべきである
- ・ 各理事・会員が内容を考える必要がある。例えば、理事内にて、Visionの内容の試作品を作成する必要がある



特定非営利活動法人 日本プロフェッショナルエンジニア協会

- ・ Mission か Vision については、将来像を描くということで、Vision という言葉が適切と考える
- ・ 20 年間に活動内容や社会や技術も変わってきている、Vision 検討に賛成する。

また、資料 S04-1 に示された「2020Vision 素案」については

- ・ 現状についての記載はあるが、これからの 20 年におけるエンジニアとして Vision の記載がない
- ・ 日本在住で PE を取る段階で、アメリカにこだわる必要はない。そのため、グローバルという言葉を使うことに違和感はない

などの意見が出て、(20 周年誌に間に合わせるよう慌てるのではなく)次回 6 月の総会までじっくり時間をかけて Vision を策定することが了解された。

2-2 20 周年記念誌の進捗状況説明および会員一言メッセージの寄稿方法について以下の通りとした。

- ・ パネルディスカッションの内容記載については、参加者から提出されたアンケートのコメントも参考にまとめてみる
 - ・ Mission 再考の記載については、テーマを Vision とし、理事会で検討していることのみ紹介する
 - ・ 会員一言メッセージについては、HP のお問い合わせフォームを利用して自動集計する
 - ・ HP での記入欄作成は森山理事が行う
 - ・ 記載条件は、日本語 40 字、英語 20 語とし、氏名、会員種別、番号(集計管理のため)、専門分野を記載してもらう(無責任なコメント、ありきたりなコメントとならないよう氏名を記載することとする)
 - ・ 全会員への依頼は、広報部会からメールで案内を発出し HP に誘導する
- 以上が了承された。

3. JPEC との連絡会(事務局:小口) …Shiryō -S05

コロナ禍のため面談での開催に替えてメールでの情報交換を行うことし 9 月に送信した。それ以外は連絡会が途絶えている。またメンター部会からメンタリング活動に関係する内容の質問書が来ている。連絡会は当初、偶数月に開催としていたので、面談または Zoom で開催するか、また質問書の出し方について審議した。その結果、結論は次の通り。

- ・ Web ベースで連絡会を再開する打診を行う。
- ・ 森山にて、JPEC の岡会長へ連絡会再開の打診を行う。
- ・ 質問書は連絡会の中で、JPEC と合意した連絡会の趣旨に沿って取り扱うこととする。

4. 受験登録相談会(会員部会:小口) …Shiryō -S06

2020 年 3 月の相談会が開催できていないことから Zoom での相談会を企画した。3 月の会場開催とは別に 12 月頃に行う案について審議した。

その結果、結論は次の通り。

12 月に一度相談会を行う場合、セミナー等の日が近く、理事の負荷が高まる、参加者の募集が間に合わないという可能性はあるが、12 月に相談会を実施する方向で進める。実施の可否を検討するために詳細な実施内容案を会員部会で作成する。



特定非営利活動法人 日本プロフェッショナルエンジニア協会

5. PEに関する本の執筆(企画:森山)・・・Shiryō-S07

今年度総会でも意見が出て、20周年パネルディスカッションでも意見が多かったPEに関する本の作成について検討を開始する。

集中して検討をする必要があるため20周年記念誌発行以降、2021年に作業を開始する。次回理事会に具体的な企画案を出すこととする。

【報告事項】

1. 20周年パネルディスカッション

10月31日(土)にパネルディスカッションを行った。この内容は20周年記念誌に掲載予定。

2. 大喜利デジタルトランスフォーメーションのチャット試行(企画:森山)

メールでの案内、JSPEマガジン10月号での案内も行ったが、チャットの入力が増えていない。

以下コメント

<土屋> (取り上げた話題である)DXを業務としている方は、必ずいるはずで、それが集まらないことについて疑問を感じる。

<森山> メールで大喜利をやった時も直接声掛けをして登録したメンバーが多く、自主的な参加者は数名であった。

3. 来年の総会会場予約(事務局:川瀬)

2021年6月5日(土)の予定で総会および懇親会会場を東京グランドホテルに予約済み。

4. イヤーエンドパーティ(教育:太田)

会食会場で新型コロナウイルスの感染クラスターが発生している現状を鑑み、今年は中止とする。

<小口> 森口理事からZoomを用いたオンライン懇親会のような形式はできないか?という提案を聞いている。

5. 役員のJSPE主催セミナー参加費免除(役員への報酬について)(教育:太田)

9月理事会で‘役員への報酬について’の審議結果により、11月21日の鬼金セミナー以降、役員の参加費は無料とする。ただし、参加者把握のため、申込み手続きは必要。

6. 領収書が電子データの場合による会計報告(会計:稲葉)

領収書が電子データでしか存在しないケースが増えており、そのような場合は場合、メールアドレスで会計報告を行う。会計部会で印刷し、委託税理士へ送付する。

7. 予算消化状況の中間報告について(会計:稲葉)・・・Shiryō-S02

審議に必要な資料が不十分であり、12月に改めて審議する。

- ・ 4-9月の残高試算表
- ・ 年会費の未納分については、貸倒損失の予想を行う。



特定非営利活動法人 日本プロフェッショナルエンジニア協会




8. 持続化給付金の申請(会計:稲葉)・・・Shiryō-S03

委託税理士と相談したところ、当協会として持続化給付金の申請は可能とのことであった。

7項と関連するので12月に改めて審議する。

【次回理事会予定】 2021年1月16日(土) 9:30～

【議事承認印】

承認	森山亮	
承認	川瀬蓮郎	
承認	小口力	
書記	稲葉光亮	